

徳之島町 町誌編さん だより

号外 特集 新たな「町誌」の刊行に向けて

徳之島町の豊かな歴史・文化・自然の世界をお手元に！



新たな町誌を通じて、

郷土の歴史と文化、自然、そして誇りを未来の子どもたちへ

徳之島町長 高岡秀規

昭和 45 年 3 月に『徳之島町誌』（旧町誌）が刊行されてから半世紀が経過しました。旧町誌は多くの町民や研究者に好評裡のもとに受けとめられ、各方面で活用されてきました。しかしその一方で、徳之島町の成り立ちや出来事、移り変わりを知るには、説明が少々足りなくなってきたのではないかとの指摘がありました。

そのような中で、平成 29 年度より本町の町誌の「再」編さん事業が始まり、すでに 2 年あまりの月日が経ちました。これまではたび重なる会議や打ち合わせを経て、「委員の体制（部会・執筆者）整備」や、「資・史料の調査・収集」、「各刊行巻の編目（目次）案の検討」などが進められており、今ようやく、新たな町誌『徳之島町史』の刊行に向けて大きく動き出そうとしています。

町の歴史や文化、自然について、町民の皆さんと何を共有し、島の子どもたちに何を伝え残していくことができるのか、深く考えているところです。

このたびの町誌編さん事業では、次代を担う子どもたちにも、郷土について少しでも理解が深まるように学校現場でも活用できる「副読本」の刊行も計画しています。ご期待ください。

先史・古代・中世

最新の研究成果をわかりやすくお手元に！



高宮広土（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター教授）

近年の奄美をめぐる考古学や古代史・中世史の研究は実にめざましく、新たな発見が続いています。そうした成果を町民の皆さんと共有できるよう、新しい町史をまとめていきたいと思っています。

近 世

地域に根差した町史を！



深澤秋人（沖縄国際大学教授）

沖縄島と奄美諸島を移動した船やヒトに関心を持ち研究を進めてきましたが、はじめて徳之島を訪れた際に亀津へ向かう車中から見た海岸線上の景色は、文字を追うだけでは得られない迫力がありました。そうした景色を頭に浮かべながら、徳之島町域に伝わる史料を丁寧に読み解き、地域に根差した町史の完成をめざしたいです。

近 現 代

『徳之島町史』の編集・調査執筆活動が始動しています！



皆村武一（鹿児島大学名誉教授）

昭和45年に刊行された『徳之島町誌』（旧町誌）は町内外で広く活用されてきました。しかし、刊行から半世紀が経過し、時代は大きく変わるとともに、研究水準も一段と高まっています。過去・現在を正確に理解し、徳之島町民が誇れる未来を築くための町史を完成させたいです。

民 俗

シマ(集落)の暮らしからきらりと光る宝物を探して！



町 健次郎（瀬戸内町教育委員会学芸員）

集落（シマ）が持っている伝統文化も多様性に満ちています。そのことを新しい町史を通して島内外に伝えることができたらと考えています。町内を訪ね歩き、島の先輩方からさまざまなお話を聞いていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

自 然

徳之島の豊かな自然を、国内へ、そして世界へ！



服部正策（奄美群島文化財保護対策連絡協議会副会長）

奄美・沖縄にかけての地域で世界自然遺産の登録を目指している今日、多様性に満ちた、貴重な生物について島に住む住民の皆さんが知ることは、とても大切なことだと思います。そのようなときに欠かせないハンドブックとなるような自然編をめざしていきたいです。

地域文化

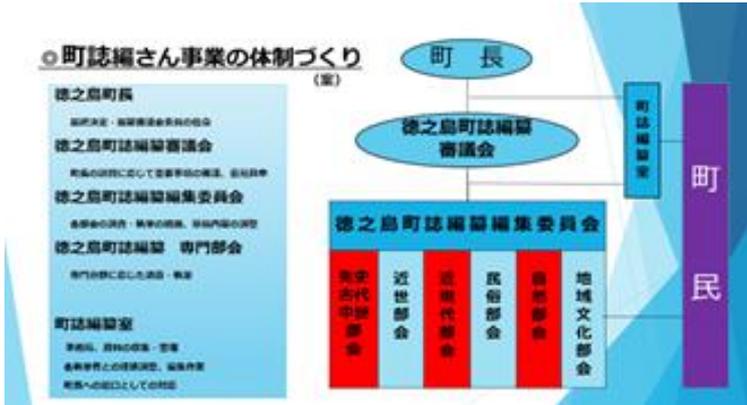
日常に息づいている大切なものを後世に伝えたい！



松村大吾（徳之島町文化財保護審議会審議委員）

小さいころ遊んだ広場や小川が時間の経過とともに形を変えたり、失われたりしています。長い時間をかけ地域の皆様に育まれてきた独特の慣習や文化、今現在生活している空間にアプローチしながら、日常の中に息づいている大切なものを後世に伝えていければと考えています。

わたしたちが『徳之島町史』をつくっています！



(令和2年6月10日現在)

◎：部会長、兼 担：他部会兼任担当

■ 先史・古代・中世部会

- ◎高宮広土 (鹿児島大学国際島嶼教育研究センター教授)
榎本美里 (伊仙町歴史民俗資料館学芸員)
大屋匡史 (徳之島町郷土資料館学芸員)
具志堅亮 (天城町教育委員会学芸員)
新里亮人 (熊本大学埋蔵文化財調査センター助教)
新里貴之 (鹿児島大学埋蔵文化財調査センター助教)
常 未来 (伊仙町歴史民俗資料館学芸員)
永山修一 (ラ・サール学園教諭)
中尾綾那 (天城町教育委員会学芸員)
與嶺友紀也 (伊仙町歴史民俗資料館学芸員)

■ 近世部会

- ◎深澤秋人 (沖縄国際大学教授)
麻生伸一 (沖縄県立芸術大学准教授)
竹原祐樹 (徳之島町教育委員会
郷土資料館兼町誌編纂室付係長)
山田浩世 (中縄県教育庁文化財課史料編纂班専門員)
屋良健一郎 (名城大学上級准教授)

■ 近現代部会

- ◎皆村武一 (鹿児島大学名誉教授)
川田隆博 (徳之島町役場農林水産課主幹)
高城博也 (徳之島町役場農林水産課課長)
竹原祐樹 兼 担
徳田美加子 (徳之島町保健センター所長
・子育て世代包括支援センター長)
久岡 学 (南海日日新聞社編集局局長)
福 宏人 (徳之島町教育委員会教育長)
山本一哉 (鹿児島大学教授)
米山太平 (徳之島町役場企画課係長)

■ 民俗部会

- ◎町健次郎 (瀬戸内町教育委員会学芸員)
榎本美里 兼 担
具志堅亮 兼 担
新里亮人 兼 担
常 未来 兼 担
林 美樹 (徳之島町役場企画課集落支援員)
町田 進 (徳之島町文化協会会長
・徳之島町文化財保護審議会会長)

■ 自然部会

- ◎服部正策 (奄美群島文化財保護対策連絡協議会副会長)
池村 茂 兼 担
鈴木廣志 (鹿児島大学名誉教授)
田畑満大 (奄美市文化財保護審議委員副会長)
成尾英仁 (元 鹿児島県立徳之島高等学校教諭)

■ 地域文化部会

- ◎松村大吾 (徳之島町文化財保護審議会審議委員
・東天城郵便局局長)
池村 茂 (徳之島町文化財保護審議会副会長)
岩下洋一 (徳之島町誌編纂室町誌編纂専門員)
大屋匡史 兼 担
重久 勇 (徳之島町文化財保護審議会審議委員)
富田保子 (徳之島町文化財保護審議会審議委員)
中林みゆき (徳之島町立亀津中学校司書補)
中林香奈代 (学識経験者)
町田 進 兼 担

『徳之島町史』の構成と刊行時期

※ いずれも価格は未定

- **自然編** A4版、並製本カバー装、200頁、令和3年9月刊行（予定）
奄美・沖縄の世界自然遺産の登録をめぐる、今、世界が注目。地質・動物（動物・昆虫・海中生物）・植物の最新の調査成果から、徳之島の自然についてコンパクトにまとめた一書。カラー写真・図版多数掲載。
- **地域編** A4版、並製本カバー装、250頁、令和4年3月刊行（予定）
徳之島町内の主要集落（旧村単位）を対象に、地域の特色や伝統文化についてコンパクトにまとめる。今の徳之島町の景観と今の住民の姿を知るのに欠かせない、島の魅力が詰まった一書。
- **通史編** B5版、上製本函入り、800頁、令和4年12月刊行（予定）
近年、とくに研究の進んだ徳之島の歴史研究。島内の考古学の最新成果や、新出史料の解読の成果を活かして、先史時代から現代（平成）までを通覧する。昭和45年に刊行された『徳之島町誌』の発展版。
- **副読本** 版型未定、並製本、100頁程度、令和5年度刊行（予定）
自然編・地域編・通史編の執筆者や町内学校の先生方が厳選した「徳之島町の歴史」50選！小・中学生にぜひとも知ってもらいたい島の歴史と文化。町内生徒に無償配布を予定。一般読者向けにも販売を予定。

『徳之島町史』本編の刊行、どうぞご期待ください！

「徳之島町誌^{そうしよ}叢書」シリーズ

上記の『徳之島町史』本編を編集する過程で発見された新出資料の中から、とくに貴重なものを集成して町民や研究者のお手元に提供する資料集（非売品）。今後も続刊の予定。図書館等でご覧ください。

- (1) 『徳之島町史』基礎資料集』平成31年3月刊 **【在庫なし】**
 - ①廣瀬祐良〔著〕「昭和八年度調査 郷土史研究 徳之島ノ部」（稿本）
 - ②大島郡東天城村役場〔編〕『我が村』昭和9年12月刊
 - ③【執筆者未詳】「東天城村の沿革」（稿本）
 - ④福岡富隆〔著〕「大正十五年 徳之島沿革概要」（稿本）
 - ⑤小林正秀〔編集〕『徳之島風土記』昭和35年5月刊
 - ⑥小林正秀〔著〕「亀津断髪—その歴史的展望」（『徳州新聞』連載記事、全10回）
- (2) 『徳之島町域「農村調査」報告集—鹿児島高等農林学校学生調査—』令和2年1月刊
 - ①嶺 武雄〔著〕「鹿児島県大島郡東天城村調査」 昭和2年2月
 - ②福岡 武〔著〕「鹿児島県大島郡亀津町」昭和18年8月
〔附録〕【鹿児島県蚕業模範場 第四回練習生 写真帳】 昭和4年ころ刊

本紙の内容に関するお問い合わせ、資料の所在情報等については下記まで。



〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 2918
徳之島町生涯学習センター3階（徳之島町郷土資料館内）
電話番号：0997-82-2908

徳之島町誌編纂室

※ 町誌編さん事業は、全国の皆さまから寄せられた「ふるさと納税」の一部を活用しています。

（令和2年6月）